

災害医療における薬剤師の役割

大森 真樹さん(熊本県山鹿地区薬剤師会)に聞く

地震や豪雨などたくさんの災害に見舞われることが多い日本では、災害医療の現場で薬剤師が活躍しています。そこで薬剤師はどのような役割を担っているのか、熊本地震や熊本豪雨で災害医療支援に従事された薬剤師の大森真樹さん(熊本県山鹿地区薬剤師会)に、日本薬学生連盟広報部の山沢智(日本薬科大学5年)、高井薫子(東京薬科大学1年)が聞き手となってお話をうかがいました。

日本薬学生連盟

—学生時代から災害医療に関心があったのでしょうか。

学生時代は薬剤師にそのような活躍の場があることすら知りませんでした。年が10歳離れている兄が薬学部に行っている姿を見て、自分も薬剤師という職種が意外に良いのかもしれないと思うようになって、中学生の頃に

は周りに薬剤師になると言っていたみたいです。

薬剤師になって1年目の時に、地元の大阪で阪神・淡路大震災が起きて、ボランティア活動をしに行きたいと言ったのですが、忙しい薬局を希望して配属されていたため、被災した地元に向かうことができず、ショックを受けました。そのような経験から東日本大震災の時に、薬剤師による支援活動の要請があった時に手を挙げて現地に行かせていただきました。ただ東日本大震災の時もやはり職場が忙しく、支援で抜けている間の薬局の業務をどうしようかとなった時に、薬局がある地域の仲間をサポートに入ってもらうことで被災地へ向かうことができました。

ようなものがありましたか。

薬剤師が行う災害時の医療支援としては、被災地での災害医療救護活動、避難者への支援、医薬品の安定供給への貢献があります。仮設診療所や避難所で医師の傍らで処方箋を組み立てていたり、処方箋の要らないOTCなどの医薬品を出す対応をしたり、避難所ではお薬相談を受けたりしていました。熊本地震ではモバイルファーマシーという薬局機能を備えた移動車両が大分県から迅速に駆け付けていただき、早期の医薬品の安定供給に貢献していただきました。

モバイルファーマシーには調剤に必要な分包機や水剤棚、医薬品、プリンターなどが備わっています。これまでは被災地で薬を出すことは容易ではなく、医療支援チームが自ら持参した医薬品の中からしか使うことができませんでした。それがモバイルファーマシ



大森さん

ーの導入で、被災1日目から薬を出せるようになりました。最近では、2020年7月の熊本豪雨災害で、熊本地震の経験から熊本県で準備していたモバイルファーマシーが初めて実際の災害に投入されました。

医薬品の供給支援のあと公衆衛生に関する活動も行いました。薬剤師法には「公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」という言葉が明記されていますよね。

医薬品の安定供給などに貢献

モバイルファーマシーが活躍

—東日本大震災の時は、どのような形で派遣されたのでしょうか。

薬剤師の災害派遣にはいくつかのルートがあります。当時は薬剤師会やDMAT、J-MATの組織による災害支援があり、また、個人で来ている方もいました。私は、熊本県の薬剤師会を通して参加しました。

—個人でいらっしゃる方もいるんですね。

そうですね、当時の被災地の報道を見て、すぐに行動を起こされた熱心な薬剤師の方々もいらっしゃいました。ですが、最近は個人で来られる方は減っています。災害によっては個人でボランティアに来られた方の衣食住を揃えることに被災地の行政が苦労したということがあり、近年では災害派遣はどこかの組織に所属して支援に向かうことがかなり浸透してきま

した。

—大森さんは、ご自身がお住まいの地域である熊本県で地震や水害の際に活動されていましたが、東日本大震災のように被災地に派遣されて活動するのと、お住まいの地域が被災されてその中で活動するのでは何か違いはありましたか？

自分の住んでいる地域が被災すると、長期間に渡って多様な支援を行うところが違うかなと思います。他の地域から派遣された方は、発災直後から慢性期への移行時期までなど、決められた期間の中で支援を行います。自分の住む地域で支援をするとなると、長期間に渡って責任者になることもありますし、可能であれば、仕事をしながら自宅から通い支援を行うという方もいました。

—大森さんが行った支援にはどの

エコノミークラス症候群対策も

避難所のトイレ掃除が鍵握る

—公衆衛生とは、具体的にはどのようなことを行ったのでしょうか。

公衆衛生の向上及び増進に寄与しますと言っても、ピンとこないかもしれません。学生の皆さんに分かりやすくするために公衆衛生の定義を改めて考えると、公衆は“公の多くの人”、衛生は“命を守ること”として、公衆衛生は“みんなの命を守ること”と考えられます。

薬剤師が公衆衛生に携わる例としては、避難所の避難者をサポートするために避難所の温度や湿度、二酸化炭素、粉塵を調べることや血検対策、エコノミークラス症候群対策、浸水家屋の消毒、感染症対策があります。

熊本地震の時には、多職種で行ったエコノミークラス症候群の対策にも携わりました。

➤



おかげさまで 13年目!

少人数制 薬剤師国家試験対策予備校

少数育成 **薬進塾**®

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 3-26-3
アコルテ浅草橋 101号

◎フリーダイヤル 0120-970-894
◎電話・FAX 03-5809-1958
◎HP <http://www.yakushinjuku.net>
☆ 学校見学・個別相談 随時受け付け中

☆ 薬進塾 少人数制コース：ホームページ (<http://www.yakushinjuku.net>) に詳細が掲載されています (特設コースも掲載されています)!

- ◎ 一年コース (2022年 5月 9日~): 『基礎の基礎』から応用まで、しっかりと育成する講座が、合格を不動なものにします!
- ◎ 半年コース (2022年 8月 8日~): 国家試験範囲をダイレクトに講義! 次の日に実施される復習テストが解法力を養います!
- ◎ 要点コース (2022年 12月 1日~): 短い期間で深い内容。要点を的確に押さえた講義が、合格へのアプローチを約束します!

☆ プロの講師! プロの講義! プロのサポート! 薬進塾だからできる! 合格への8つのアプローチ!

1. 定員40名の少人数制。机は“一人一つ”の個別の机。
2. 国家試験対策に精通した講師歴豊富な専任講師陣。
3. 学生の反応を見ながら進められる“理解する”講義。
4. マンツーマンで気軽にすぐに質問に対応できる学習環境。
5. 学生一人ひとりの相談に対応する様々なサポート。
6. 基礎力がない人も安心! 基礎から教えていくカリキュラム。
7. 企業研修・各種試験対策において豊富な実績を持つ、学習指導専任講師による『勉強のやり方を指導する』マンツーマン学習指導。
8. 1階は全て薬進塾。二面採光の教室、塾生数に対応したトイレ(塾内)の数、衛生備品の設置等、試験対策の日々に最適な教室環境。